

静岡市・観光戦略アクションプログラム  
策定に関する「政策提言」

平成22年9月15日

静岡市議会 「新政会」

平成 22 年 9 月 15 日

静岡市長

小嶋 善吉様

静岡市議会 新政会

代表 望月 厚司

## 静岡市・観光戦略アクションプログラム策定に関する政策提言

新政会では、各年度において政策提言・次年度当初予算要望の諸活動を行っておりますが、当局の皆様には、積極的な対応をしていただきまして、心から感謝を申し上げます。

昨年は第 2 次総合計画策定の年ということで第 2 次総合計画に関する提言をさせていただきました。本年度はさらに具体的な展開を図るべく喫緊の課題である観光戦略について、アクションプログラム策定への反映を目指し、情報収集と勉強会を重ねてきました。

長引く地域経済の低迷と将来の人口減少が予測される中では、交流人口を増やして地域経済の活性化を図る上で、観光産業の活性化が必須です。

現在、静岡市では平成 22 年 3 月に観光戦略をまとめ、戦略に沿ったアクションプログラムの策定が進められています。

策定にあたっての課題は、いかに重点を絞って実効性のあるアクションプログラムを策定するかであります。新政会としては、別紙に示す 3 つの視点に絞り、実効性のある政策提言をまとめましたので、特段のご高配を賜りますよう、よろしくお願い致します。

また、今回の新政会の政策提言に対し、市の考えを早急にまとめ、ご回答頂きたく、重ねてお願い申し上げます。

## 視点 1

### 市民が主体となる持続可能な観光への取り組み

市策定の観光戦略が、現場の声を十分に取上げて作られているのかという意見があります。市民が、外からのお客様に対して「おもてなしの気持ち」を持ってなくては、長続きは難しいと考えます。

静岡市は温暖な気候がもたらす「温厚な市民性」が風土としてあり、広く知られているが、そうした風土を活かした「おもてなし」による観光が必要です。

市民が主体となる事で、静岡市固有の風土を活かし、来る人をもてなす事で、また来たいと思わせることが持続可能な観光へと繋がると考えます。

## 視点 2

### 「駿府の街」を中心に、歴史的・文化的遺産を活かした観光への取り組み

重点戦略が多くあるとイメージが造りにくく、視点がぶれる。重点施策を絞り込み、幾つかの目標を定め、集中的に事業を進め、評価するというPDCAサイクル手法による事業展開が必要です。

広く市民に知られているイメージとして大御所時代の徳川家康があり、駿府城を中心としたネットワークによる観光拠点整備が解りやすい。江戸時代からの時代背景を物語とした東海道五十三次にある宿場町など一連の史跡を有機的に結んだ整備が必要と考えます。

## 視点 3

### 日本平や清水港などを拠点に、来る人に感動を与える観光への取り組み

静岡市の中央に位置し、富士山、清水港、三保、南アルプスの眺望が望める日本平は市の観光拠点として最適です。また、駿府の町の物流拠点として発展してきた清水港も、日本平とともに人間の五感に響く感動を与える観光拠点として貴重な静岡市の財産です。

このふたつを拠点に、特産品のマグロ、お茶、静岡おでんなどの味わう感動や、富士山、羽衣の松、南アルプスなどの見る感動、地場産業である木工品やホビーなど触れる、体験する感動と、様々な楽しみ方を提供できる観光整備が必要と考えます。

以上、観光戦略アクションプログラム策定にあたって重点とすべき3点の視点を強く意識し、具体的な政策を別紙に取り纏めただので、ご検討をお願い致します。

## 市民が主体となる持続可能な観光への取り組み

大御所400年祭市民参画事業は市民の意識啓発に一定の役割を果たしたが、継続性において課題が残った。一過性にならない観光都市市民参画事業を展開する

1. 市民主導による訪れる人たちをもてなす風土づくり
  - ・外国人訪問者に対応した案内看板の整備と通訳サービス事業の展開
  - ・公共施設や商店街などで「美味しいお茶によるおもてなし運動」の展開
  - ・地域ごとのイベント、観光コース、観光拠点などに関するきめ細かな情報発信ツールの整備と推進
2. 観光ボランティアの有効活用と充実拡大の推進
  - ・静岡観光検定・ご当地情報コンテストなどで公に認知させる仕組みづくり
  - ・観光拠点ごとの観光ボランティアを育成し、優良案内ボランティア表彰制度などの仕組みづくり

## 「駿府の街」を中心に、歴史的・文化的遺産を活かした観光への取り組み

1. 大御所「徳川家康」の創った街として、随所に駿府物語の雰囲気がある街づくり整備
  - ・駿府公園を駿府城公園として、天守台までを早期に整備し、天守閣を市のシンボルとして位置付け、観光の目玉としての建設に向けた計画の策定
  - ・歴史的、文化的施設を、観光の視点に立った、資料展示や歴史の物語を感じられる博物館として整備
  - ・静岡駅から駿府公園までの観光コースに竹千代から大御所徳川家康を感じる事が出来る仕掛けづくり
  - ・浅間神社周辺の歴史的史跡を整備し、歴史の参道をつくる
2. 江戸と京都を結ぶ東海道の歴史を活かした観光
  - ・蒲原宿から丸子宿までの東海道をウォーキング歴史散策コースとして整備
3. その他の歴史的、文化的遺産を活かした観光
  - ・登呂遺跡、羽衣の松、などの遺跡と薪能や大道芸などの伝統及び近代芸能を複合的に常時楽しめるプログラムの策定

## 日本平や清水港などを拠点に、来る人に感動を与える観光への取り組み

1. 日本平公園整備を、環境に配慮した範囲で規制を外し、観光に重点を置いた整備計画へと見直し
  - ・富士山、清水港、駿河湾の眺望を楽しめ、また静岡市特有の食（お茶、まぐろ、静岡おでん、みかん、桜エビ、シラスなど）を楽しめる拠点施設の建設
  - ・富士山絶景スポットづくりと富士山が見られない時のヴァーチャル体験やホビーの首都を発信する拠点施設の建設
  - ・グラウンドゴルフ全国大会が開催できる芝生広場
  - ・日本平公園周辺で、お茶摘み、ミカン狩りなどの体験型観光が楽しめる農園整備
2. 清水港を中心に、漁港の連携による体験と食による観光
  - ・由比漁港、江尻漁港、用宗漁港を拠点にしたフィッシングや定置網などの体験とその場で鮮魚を食す事が出来る施設の整備
  - ・県管理である清水港の一部（清水駅東地区）を市の管理権限に移譲し、親水公園とカーフェリーの波止場として整備
  - ・三保地下深層水を活用した養殖事業を観光産業として育成

最後に、以上の提言を実施し、観光都市静岡のイメージが「駿府の街」「清水港」「日本平」となるには、地道なプロモーション活動の成果が上がるのを待たなければならない。

そこでスピーディに静岡を売り込む戦略も必要で、「静岡おでん」や「大道芸」、「ホビーの首都」といった現時点でアピール力のある発信源をもっと活用、強調することも必要である。様々な発信ツールを利活用したプロモーションの推進を要望する。

また、これら観光に関する提言の実行にあたっては、強力な推進力を持つ組織体制が必要であり、「観光・シティプロモーション課」と、これからの国際化にむけ「国際課」を統合して観光部へ昇格し、様々な事業を推進するにあたり、数値目標を定め、実施に対する成果を評価する事を要望する。